

横浜緑ヶ丘高校

データ A:B:C:D比 3:5:2:2 / 時間 50分 / 配点 200点 / 観点:論理的思考力・表現力・創造性
 2015 年度募集定員:278名 / 2015 年度志願者数:478名 / 2015 年度志願競争率:1.72倍

作文とプレゼンテーション——知識不要で能動的学力のみを対象とする県下の個性派

□問題の概要

説明力+他者への配慮と想像力を求める

問題1は作文の問題が3問。

「昔の人の生活の知恵やスタイルを現代に活かす」というテーマで、5つのことがらが示されます。

打ち水による涼と縁側でのひなたぼっこ・顔なじみの商店による配達と交流・茶碗や新聞紙の再利用・保存食の工夫や地域の食材の活用、です。

問1は大切だと思うものを選んでその理由を60字以内で書きます。

問2は「ご近所ともののやりとり」を加えるとよいと発言したメンバーについて、その理由を想像して60字以内で書きます。

問3は、問1で選んだものまたは問2で出されたもののどちらかをとりあげて発表するという設定でどちらを取り上げるか決め、そのときに使うキャッチフレーズを書きます。

問題2は地域の小学生との交流会で中学校生活の一部を紹介するプログラムの企画シート作成で、テーマは「小学生が感じる不安を取り除く」こと。

問題1・問題2に共通するのは、説明力と想像力です。

自分の意見を適切に説明すること、それを他者に受け止めやすくするための配慮ができること、他者の考えに想像力をはたらかせることが一貫して求められています。

□設問一覧

作文と企画シート作成

右の表は、本来他の学校の特色検査と比較するためのデータですが、横浜緑ヶ丘高校に限っては、比較のしようがありません。小作文のテーマも、企画シートの内容も、これまでのところ、学習した教科の内容についてアウトプットする要素はほぼありません。

また、小論文の一種としてみた場合、テーマが自然科学・人文科学・社会科学のいずれに属するものなのか、そして、どのような考察を求めているかによって分類できますが、今のところ、そういった特徴もとぼしい題材です。

あとの項目でも記しますが、作文や企画を通じて「他者への想像力を土台にした創意工夫」がどれだけできるか、ということが唯一最大の課題のようにも見えます。

大設問	設問	形式	使用教科
問題1	問1	論述	国論
	問2	論述	国論
	問3	論述	国論
問題2		企画	国論

□設問の特徴 能動的学力のみを求め、創意工夫を重視

問いがシンプルなのに、書き手の創意工夫の差がはっきりする

特色検査に限らず、テストで求められる学力は2種類あります。

第一が主流といえる「受動的学力」です。まず、指定されたことがらをしっかりとおぼえて「知識」とし、使いこなすことです。そして、示された素材について作業したり推理したりする「思考」もこれに含まれます。共通しているのは、指示にしたがって行動することが中心で、意志表示は求められていない点です。

第二が「能動的学力」です。こちらは基本的に意見を述べることです。作文や企画などです。

能動と受動のどちらがよいとかどちらが難しいとかいうことではありません。学力検査は基本的に受動的、特色検査は受動を中心に、学校によって能動（論述や作文）が加わります。

その点、横浜緑ヶ丘高校の特色検査は「受動的学力は学力検査にまかせた」とばかりに、すべて能動的学力を測る問題です。大学入試の小論文に近い性格ともいえます。主なテーマは「創意工夫」と「他者への配慮」です。設問で問われていることは、特に難しくありません。しかしながら、創意工夫が求められるということは、ありきたり解答とオリジナリティの高い創意工夫にあふれた解答ではつきり差がつくことを意味します。なお、模試の受験者や対策講座受講生の様子を見ていて、最も楽しんでいると思われるのが横浜緑ヶ丘高校です。「工夫することの楽しさ」がテーマともいえます。

□昨年との比較

形式・内容・方針ともに変化なし

問題1の5つの項目を使う作文と、問題2の学校行事の企画シートについて、変化はありません。強いていえば、問題1の間3が作文からキャッチフレーズ作成に変わったことでしょうか。

昨年も今年も、題材をできるかぎりシンプルにすることで、創意工夫の余地を大きくしていると考えられます。

□課題と対策①

作文の練習に「多様な視点」を常にとり入れる

作文力が基本です。「選んだ理由」「なぜか」を限られた文字数でわかりやすく印象的に説明することです。

ここで重要なのは「読み手」の存在を常に意識することです。書き手がわかったつもりでも、読み手に通じなければ成り立ちません。また、問題1の間3にあるように、わかりやすいキャッチフレーズを設けたりする手法も使いこなせるように練習します（これは、問題2の企画シートにも有効です）。また、問題2の企画に「小学生の不安を少しでも取り除く」というテーマがあります。「どこが不安なのか」「なぜ不安なのか」「どうすれば解消させることができるのか」を小学生の立場に立って（時計の針を戻して）よく想像することが必要です。

ただ意見や案を述べるだけでなく、自分の表現を客観的に多様な視点から見直し、受ける側への配慮を忘れない練習が大切です。

□課題と対策②

目に触れるさまざまなものごとに「創意工夫」を加えてみる

「創意工夫」の本質をまとめます。意味は「新しいものを創りだしたり、ある物事をよりよいものにしたりにするために努力すること」です。「新しいもの」は、すでにあるものを新たに組み合わせることで創られます。奇抜なアイデアや天才的なひらめきを求めるものではありません。

創意工夫とは、2つの要素で成り立ちます。

- 1 ものごとをもっとよくしたいという意欲
- 2 ものごとを様々な角度から観察し、改良を試みる行動

1があるから2が生まれます。まとめれば「もっとよくしよう」です。具体的には次の2点が基本です。

- A よりわかりやすく伝える
- B より印象深く伝える

この訓練は、いつでもどこでも楽しみながらできます。

たとえばテレビ番組をみて、街角で行われているイベントをみて、学校行事などの最中にも、「自分ならこうする」と考え、誰かに説明することです。イベント企画の練習は、いつでもどこでもできて、その上楽しみながらスキルアップできるという、一石二鳥も三鳥にもなる行為です。どんどん経験してください。テレビ番組を見たり、イベントに参加したりすることがさらに楽しくなるという素敵なおまけもついてきます。

■問題・分析・模試の出題例 ①

問題 1 問 1・問 2 「昔の人の生活の知恵やスタイルを現代に活かす」というテーマの作文

(前略)「昔の人の生活の知恵やスタイルを現代に活かす」というテーマで発表を行います。調べた結果、次の 4 つがありました。

- A 打ち水による涼と縁側でのひなたぼっこ B 顔なじみの商店による配達と交流
C 茶碗や新聞紙の再利用 D 保存食の工夫や地域の食材の活用

問 1 大切だと思うものを選んでその理由を 60 字以内で書く。

問 2 「ご近所とのもののやりとり」を加えるとよいと発言したメンバーについて、その理由を想像して 60 字以内で書きます。

問 3 問 1 で選んだものまたは問 2 で出されたもののどちらかをとりあげて発表するという設定でどちらを取り上げるか決め、そのときに使うキャッチフレーズを書きます。

◇問題分析：易しくて難しい作文・浅くも深くも書ける——「視点の多様性」を重視

問 1 はシンプルな作文です。ここでは自由に書けるでしょう。

問 2 は自分とは異なる意見の持ち主の考え方を想像して書きます。「視点の多様性」が重要です。

この問題の特徴は、浅くも深くも書けるということです。「それが大切な・それを加えたいと思う」理由を書くだけなら、それほど難しくありません。A・C・D は省エネやエコロジーに結びつくことですし、B は地域社会における交流に結びつけられますから、それを書いて「昔の人が生み出した知恵を現代にいかすことが重要」のような表現を加えれば 60 字は埋まります。しかし、厳密にみるとじゅうぶんな解答とはいえません。

問 1 の設問をより正確に読みます、「それを選んだ理由」とあります。他のものではなく、「それ」を選んだ理由です。できればそれが現代に特に重要であることを説明すべきです。仮に A を選ぶなら、「省エネと環境保全が文明社会の維持にもっとも重要である。だから、このような工夫をすることが特に重要だと考えられる。(59 字)」のように書くことでよりいきとどいた解答になります。

問 2 は「足りないものを近所から借りる・いただき物をおすそわけする」ことが大切と考えた理由です。この項目の特徴は、A・C・D の「省エネ・エコロジー」と「地域社会の交流」を両立させていることにあります。さらに深く読めば、活かすのはあくまでも「昔の人の生活の知恵やスタイル」です。書かれたこととまったく同じことをするとは限りません。そう考えると、この追加案は、余ったところから足りないところにものを動かして無駄をなくす知恵、といえるわけです。そう考えると、先進国と途上国、豊かな地域と貧困地域の格差の是正という、世界的な問題解決に結びつけることも可能になります。ここまで掘り下げて考えて書くことも可能な設問です。

□「緑ヶ丘模試」の出題

「学ぶことの意義や目的」は、人によって異なります。

中・高校生対象に、「学校で学ぶことは何の役に立つと感じるか」を右の 5 つの指標*で答えるという調査があります。この調査にあなたが答えるとして、右の 5 つの指標を「学校で学ぶことは何の役に立つか」という観点からより役に立つと思う順に並べ替え、その記号 (A~E) を書きなさい。

また、その順位をもとに、あとの問いに答えなさい。

問 1 あなたが 1 位に選んだ指標について、それを選んだ理由を 60 字以内で書きなさい。

問 2 あなたが 5 位に選んだ指標を、ある人は 1 位に選んでいました。その人がその指標を選んだ理由を推測し、60 字以内で書きなさい。

問 3 指標を追加し 6 つにして調査を行うとしたら、あなたはどのような指標を追加しますか。追加する指標としてふさわしいと思うものを一つあげ、それを追加した理由を 90 字以内で書きなさい

* 「右の5つの指標」は省略

■問題・分析 ②

問題1 問3 現代に活かすことが大切なものについてキャッチフレーズを作成する

◇問題分析：楽しめる入試問題——ここでも「視点の多様性」

キャッチフレーズは、短い語句でものごとを印象深く表現するものです。要約力・表現力に加え、受け手の印象がどのようになるかを考慮する想像力が求められます。視点の多様性がやはり必要です。この後の企画シートと共通点があります。企画シートでも箇条書きや図などの使用が可能です。要するに、印象深い表現を工夫するのです。これは楽しめる問題です。先ほど書いたように、日常的に「改良する訓練」を積んで、その成果を発表する舞台であると考えてよいでしょう。

■問題・分析・模試の出題例 ③

問題2 小学生に、中学校生活の一部を体験してもらうための企画シートの作成

小学校で、卒業生（中学生）との交流会が企画されています。「小学生が感じる不安を取り除く」ために中学校生活の一部を紹介する内容の交流プログラム（60分で教室・会議室・体育館の使用可）を企画します。

◇問題分析：創意工夫を発揮できる入試問題——やはり「視点の多様性」を忘れずに

企画に求められていることが複数あり、企画実行の条件が多いので、見落とさないように注意しましょう。問われていることと、条件などに必ず目印をつけて、目印をつけた内容とずれがないか、条件が全て満たされているかを見直しをするべきです。

なお、ここでも「視点の多様性」が大切です。「企画書」は、二重の意味で、他者を意識する必要があるからです。

第一に、企画内容そのものです。小学生にとって「不安を取り除いてくれる企画」でなくてははいけません。

ここで、誰のための企画なのかを忘れてはいけません。

第二に、企画書についてです。見てわかりやすく、企画内容の具体的なイメージがわくようなものでなくてははいけません。

この点を忘れずに、もちろん、受検者自身も企画作成を楽しむべきです。事実「この問題を解いているときに、入試で一番楽しかった」という感想もありました。

□「緑ヶ丘模試」の出題

あなたの住む地区の小学校を、オーストラリア西部の都市パース*から来た 20 人の小学生が訪問します。午前中は授業の様子や学校の施設などを見学し、午後にはその小学校で交流会が計画されています。

交流会の参加者は地元の小学生（高学年）20 人、オーストラリアの小学生 20 人です。あなたをふくめた中学生数人が、司会進行係をします。交流会では「おたがいの国を知って、驚きを体験する」ことをテーマに 1 時間のイベントを企画します。イベントは教室やグラウンド、体育館、視聴覚室など学校内で行います。あなたが交流会でのイベントの企画をたてるとしたら、どのようにしますか。解答用紙にある様式にしたがって「企画シート」を作成しなさい。

なお、日本人の小学生は英語についてはあいさつ程度しかできず、オーストラリア人の小学生の日本語も同じようなレベルという前提で考えてください。

* 語注は省略